

だんだん80歳に近づいてきたが、教員免許状があるおかげで、ある施設で学習支援を続けてきた。脳トレーニングにもなる。

しかし、この3年はコロナ禍で教える機会がほとんどなく、その間に中学校の教科書は改訂された。新しい英語の教科書を調べしてみてもびつくりした。小学校で英語が

正規の授業になつたためか、中学校の指導内容が格段に難しくなつて、学びなおしの時間が必要になつている。

扱っている教科書の中に会話の場面がある。アメリカから来た先生が、廊下に張つてある地図の記号を見て「この印はピクニックができる場所？」と生徒に聞く。生徒は「いえ、神社です」と答える。どうも鳥居の形に似たマークがアメリカにあるようで、文化の違いを学び取つ

ていく場面になつている。そういえば2月18日付本紙「じもとア」に、穂高神社にある厳島社の赤い鳥居の写真が載っていた。私の区にある神社には鳥居がない。なぜないのか。聞いた話によると「昔、神社の脇を沢が流れていて、大雨で流されてしまった。また作つたが駄目、それ以来、鳥居を作らなかつた」という。現在は

## 学習支援を続けて

はそのような沢はない。昔とはいつ頃だったのか。鳥居が流されるほど雨が降つたのか。

そんなことを思いめぐらしながら、英語を通して地域を考え、若者たちに事象を多角的に教えるのも面白い。支援はあどどのくらいできるのか。それも体力勝負かと思う昨今である。

(安曇野市穂高、荻原義重、78歳)

点差

こうさてん